

平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	Let's Challenge 3B! ～心を磨く、自分を磨く、社会を磨く～ (3B:3つのブラッシュアップ)		
法人名	学校法人武田学園		
学校名	専門学校ビーマックス		
代表者	理事長 武田 結幸	担当者 連絡先	繁田 洋行 TEL (086)256-7610
<p>1. 事業の概要</p> <p>キャリアガイダンスにおける6分野のうち、職業・産業の理解、啓発的経験の2分野に焦点をあて、座学中心では無く、実践・経験型のキャリアガイダンスを研究・開発する。</p> <p>社会貢献を切り口に、企業の実態調査を行い、社会で求められる人材像を把握する。そして社会貢献活動等を活用した若年者の就業意欲を喚起するためのインターンシッププログラムを5種(業種)を研究・開発、及び実施する。その成果を以って、専修学校等で行われているキャリアガイダンスの改善、及び質的向上をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 社会貢献活動に関する企業実態調査 ii. 社会貢献活動に積極的な企業における求められる人材像の把握 iii. 上記 ii、における社会人としての特性調査、及び、専門学校生、若年者フリーター、若年者契約社員の特性調査 iv. 社会貢献活動を含んだインターンシッププログラムの開発 v. 上記 iv、の実施・検証 <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企業における、社会貢献活動の実態調査を行うことにより、企業が社会貢献活動に取り組む理由、目的、課題等が把握できた。 ●社会人、専門学校生、非正規雇社員(雇用者)の特性調査を行う事により、それぞれの特性を科学的に把握することができた。 ●専門学校生が各種社会貢献活動に参加し、また、複数社の企業様のご協力のもと、社会貢献活動を取り入れたインターンシッププログラムが開発できた。 ●専門学校生、非正規社員(雇用者)の就業意識調査を行う事により、それぞれの就業に対する意識が統計的に把握できた。 ●一連のプログラムの検証を通じて、新たなインターンシッププログラムの開発、実施の参考となった。 <p>②事業により得られた成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ●複数回の社会貢献活動へ学生自身が参画し、その後にインターンシップに参画するプログラムを開発した。 ●インターンシップに参画する際には、事前講座を設け、インターンシップ参加の目的、心構え、秘密事項の守秘義務についても理解させた。 ●インターンシップで自分が何を学びたいか等の目標も各自に設定させた。 ●インターンシップが終了した段階で、再度事後研修を行った。これは、各学生が様々な業種での就業を通じ、どんな就業を行ったのか、そこから何を学んだのか、そしてその学びをどの様に今後活かすのか、というテーマで行い、学生同士で共有することを目的に行った。 ●インターンシップを通じて自分自身に何が足りないと感じたのか。また、アルバイトと正社員の違いは何か等についてディスカッションも行い、学生の学び、気づきをさらに深いものとした。 			

③今後の活用

多くの社会人が、また多くの企業が社会貢献活動へ参加し、社会に貢献しているという社会の現実を学生自身が身を持って知り、ある程度企業の目線を持ってインターンシップに参加するプログラムが開発できたことの意義は学生にとっても、また専門学校においても大きなものであった。

次年度以降においても、本事業で開発されたプログラムを学生に提供し、学生の就業意識・意欲の喚起を継続したい。

④次年度以降における課題・展開

事前研修を実施頂いた担当、及び実施にご協力頂いた企業様からも建設的なご意見を数多く頂き(インターンシップの複数回の実施)、次年度以降のプログラム開発に役立てたい。

さらに、学生の気質や性格も考慮し、各学生の特性に合ったインターンシッププログラムの開発も各企業様と連携しながら開発したい。

また、インターンシップの問題点は社会人となってから、インターンシップの体験をほとんど覚えていないということもあり、学生の就職後においても定期的に学生の追跡調査を行い、結果をフィードバックしたい。

3. 事業の実施に関する項目

①ニーズ調査等

① 企業における社会貢献活動の実態調査の実施

社会貢献活動に関する実態調査をアンケート方式で行ない、有効回答数100社を得た。その結果、約70%の企業が何某の社会貢献活動に参加しているという結果が得られ、社会貢献活動という活動が企業に十分に浸透しているということがうかがえた。

② 社会人、専門学校生、非正規社員(雇用者)の特性調査の実施

専門学校生159名、非正規社員(雇用者)200名を対象にその特性を把握するための特性調査を行った。

専門学校生のパーソナリティと社会人との差異は、

●「気質」:行動制御の高さ→ 行動(何かすること、考えること)へのブレーキがかかりやすい。

●「性格」:自己志向の低さ→ 自分に意識が向いておらず、軸も確立していない。自己志向が低く、協調志向が高い。

非正規社員(雇用者)と社会人との差異は

●「気質」:行動制御の高さ→ 行動(何かすること、考えること)へのブレーキがかかりやすい。

●「性格」:自己志向の低さ→ 自分に意識が向いておらず、軸も確立していない。

③ 専門学校生、非正規社員(雇用者)の就業意識調査の実施

専門学校生159名、非正規社員(雇用者)200名を対象に就業意識を調査する目的でアンケート形式で行った。

専門学校生の調査結果より、将来就きたい仕事は、ほぼ全員が興味のある仕事と回答。一方で仕事を選ぶ際の条件では、給料・ボーナスや自由な時間などプライベートを重視する傾向が見られた。

仕事に対する意識では、仕事とは自分を高めるもの、つまり「自分のために仕事をしたい」という意識が強く、社会に貢献するために仕事をするという意識は弱いことがうかがえた。

望む雇用形態は圧倒的に正社員が多く、雇用の安定・福利厚生充実など安定志向の回答が多く見られた。

さらに、少数ではあるが、正社員を目指さない層の理由として、「実現させたい夢があるから」という回答が最も多かった。

非正規雇用者のアンケート結果からは、仕事を選ぶ際に重視する条件として、自分に合う仕事であること、収入を増やしたい(多いこと)、職場の人間関係が良いこと、通勤の便がよい事、という条件が上位を占めた。

また、時間に対する意識も高く、これは専門学校生と同様にプライベートを重視している傾向が強いこともうかがえた。

②カリキュラムの開発

テーマ:インターンシッププログラムの開発

開発経緯:

社会貢献やその活動に対する若年者の認識と企業経営の常識との間には極めて大きなギャップがある。

本プログラムではこのギャップを埋めるためのプログラムの開発、実施、検証を行うことを主たる目的とし、就業や社会貢献活動等に対する社会の意識に学生の意識を近づけ、より実践的、より啓発的なキャリア指導の推進をはかる。

対象:専門学校生

手法:インターンシップを受け入れて頂ける企業様とともに学生自身が社会貢献活動に参画し、検証を通じてプログラムを開発する。

開発内容:社会貢献活動を盛り込んだインターンシッププログラムを開発。

③実証講座

テーマ:社会貢献活動への参画、及びインターンシップの実施

期 間:平成18年6月～11月

社会貢献活動への参画 3回

インターンシップの実施 3～4日間

受講者の属性:専門学校生(1年)

受講者数:男子15名 女子7名 計22名

場 所:社会貢献活動

●公立小・中学校

●旭川流域

●岡山市奉還町商店街

インターンシップ

●8社9事業所における就業場所

受講者の反応:

様々な社会貢献活動に各企業様とともに参画し、社会貢献活動が企業経営の一部、または社会生活の一部となっている事が身をもって経験できた。また、一連のプログラムへの参画を通じて、社会貢献活動そのものに対して前向きな見方が出来る様になった。

④その他

学生が社会や会社をより深く知るためには企業での就業経験だけでは足りない。

本プログラムは単にインターンシップに参画し、就業の一部を経験するだけでなく、企業活動の一環として行われている社会貢献活動もプログラムの一部としている点にある。

今回、事業実施において工夫した点は、インターンシップを受け入れて頂ける企業様にも学生同様に社会貢献活動にも参画して頂いた点である。この結果、学生と企業様との間で共有できる事柄も増え、会社自体が学生にとって、より身近なものとなった。